

2018 年度 第 31 回日本リスク研究学会年次大会

プログラム（詳細版）

11 月 9 日（金）16:00-18:00

企画展示室（3F）

「リスク教育や復興に関する参加型セッション（言語：英語【日本語通訳付き】）」 座長：後藤あや（福島県立医科大学）

S1-1 Participatory approaches to disaster risk research and education（参加型アプローチによる災害リスク研究と教育）

Alison Lloyd Williams（英国 Lancaster 大学）

11 月 9 日（金）18:00-20:00

企画展示室（3F）

「ナイトセッション（軽食付き）」 座長：後藤あや（福島県立医科大学）

S2-1 【ヘルスリテラシー】すぐに使える健康情報を伝える知識と技術

後藤あや（福島県立医科大学）

11 月 10 日（土）9:00-10:40

401 会議室（4F）

企画セッション1「行政の施策とリスク学の接点」 座長：名取雄太（東京都環境局）、鈴木聡（福島県環境創造センター）

O1-1 「放射線による健康影響等に関する統一的基礎資料」による環境省の取組

斎藤美紀子（環境省大臣官房環境保健部放射線健康管理担当参事官室）

O1-2 東京多摩地域における災害廃棄物の受け入れの取組

荒井和誠（東京都環境局多摩環境事務所廃棄物対策課）

O1-3 除染対象外となる放射性物質含有土の処理に係る取組

高畑修（福島県土木部）

O1-4 地域の化学物質のリスク評価の取組

芥川智子（（地独）北海道立総合研究機構環境科学研究センター）、田原るり子（（地独）

北海道立総合研究機構環境科学研究センター）、近藤啓子（（独）製品評価技術基盤機構）、

松崎寿（（独）製品評価技術基盤機構）、竹田宜人（（独）製品評価技術基盤機構）

O1-5 埼玉県の環境コミュニケーション

岡田寛昭（埼玉県環境部大気環境課）

402 会議室 (4F)

一般セッション1「事故・災害時のリスク評価手法」 座長：李泰榮（防災科学技術研究所）

G1-1 反応暴走に対する新規リスク評価のための確率作成手法の提案

土井将布（横浜国立大学）、熊崎美枝子（横浜国立大学）

G1-2 水素の非着火放出を想定した水素ステーションのリスク評価

中山穰（東京大学環境安全本部／横浜国立大学リスク共生社会創造センター）、半井豊明（総合安全工学研究所）、坂本惇司（横浜国立大学先端科学高等研究院）、伊里友一朗（横浜国立大学環境情報研究院）、笠井尚哉（横浜国立大学環境情報研究院）、澁谷忠弘（横浜国立大学リスク共生社会創造センター）、三宅淳巳（横浜国立大学先端科学高等研究院）

G1-3 被災生活への適応力を考慮した水需要原単位の調査に関する研究

須藤むつみ（お茶の水女子大学大学院生活工学共同専攻）、中久保豊彦（お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系）

G1-4 自然災害に起因する非定常な化学物質流出シナリオの構築

小島直也（大阪大学大学院工学研究科）、田渕裕也（大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻）、松浦誠（大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻）、濱本翔吾（大阪大学工学部環境・エネルギー工学科）、伊藤理彩（東京大学大学院理学系研究科）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）

小研修室 (5F)

一般セッション2「リスク認知・メディア」 座長：大沼進（北海道大学大学院）

G2-1 調理師専門学校における食のリスク教育によるリスク認知の変化

大瀧直子（特定非営利活動法人食の安全と安心を科学する会（SFSS））、山崎毅（特定非営利活動法人食の安全と安心を科学する会（SFSS））

G2-2 食のリスクコミュニケーション失敗の主因はリスク認知バイアスか

山崎毅（NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)）、大瀧直子（NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)）、桑原正貴（東京大学大学院農学生命科学研究科）

G2-3 必要とされる健康関連情報の類型に基づく放射線のリスク認知と主観的ウェルビーイングの関連

竹林由武（福島県立医科大学）、村上道夫（福島県立医科大学）、大平哲也（福島県立医科大学）、後藤あや（福島県立医科大学）、安村誠司（福島県立医科大学）、五十嵐泰正（筑波大学）、佐藤映子（福島県立医科大学）、佐野和美（帝京大学）、竹田宜人（横浜国立大学）、内藤航（産業技術総合研究所）、広田すみれ（東京都市大学）、保高徹生（産業技術総合研究所）、谷川攻一（福島県立医科大学）

G2-4 テレビ・ドキュメンタリー番組「NNN ドキュメント」における薬害の記録

加藤美生（東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学）、丹羽美之（東京大学大学院情報学環/学際情報学府）、大野直子（順天堂大学国際教養学部異文化コミュニケーション領域）、石川ひろの（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）、上野治香（東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学）、奥原剛（東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学）、岡田昌史（東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学）

ーション学)、木内貴弘(東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学)

G2-5 新聞記事テキストデータの解析に基づく社会のリスク認識についての研究

平林昌樹(大阪大学大学院情報科学研究科科目等履修生)、渡邊学(大阪大学大学院情報科学研究科科目等履修生)

11 月 10 日(土) 10:50-12:30

401 会議室 (4F)

企画セッション2『『社会的影響の大きな企業人の仕事』と『リスク学』の接点を探る』 座長: 鈴木寿一(キヤノン株式会社環境統括センター環境法規課)、井上知也(みずほ情報総研株式会社)

O2-1 環境に関わる国際規格策定における化学物質領域の課題と今後

竹中みゆき(日立ハイテクノロジーズ)

O2-2 福島復興に関する企業からの情報発信

義澤宣明(三菱総合研究所)、白井浩介(三菱総合研究所)、村上佳菜(三菱総合研究所)、馬場哲也(三菱総合研究所)

O2-3 金融力で未来をレジリエントでサステナブルな社会をデザイン

蛭間芳樹(株式会社日本政策投資銀行)

402 会議室 (4F)

企画セッション3「水素エネルギーキャリアのリスク評価の最前線」 座長: 恒見清孝(産業技術総合研究所)

O3-1 ベイズ推論による有機ハイドライド型水素ステーションの漏洩頻度推定

木原武弘(産業技術総合研究所安全科学研究部門)、牧野良次(産業技術総合研究所安全科学研究部門)、小野恭子(産業技術総合研究所安全科学研究部門)、佐分利禎(産業技術総合研究所安全科学研究部門)、久保田士郎(産業技術総合研究所安全科学研究部門)、恒見清孝(産業技術総合研究所安全科学研究部門)、和田有司(産業技術総合研究所安全科学研究部門)

O3-2 有機ハイドライド型水素ステーションのリスク評価

恒見清孝(産業技術総合研究所)、吉田喜久雄(産業技術総合研究所)、木原武弘(産業技術総合研究所)、小野恭子(産業技術総合研究所)、佐分利禎(産業技術総合研究所)

O3-3 水素輸送の事故統計解析

野口寛貴(広島大学)、布施正暁(広島大学)

O3-4 水素ステーションを対象とした社会総合リスクアセスメント

稗貫峻一(横浜国立大学リスク共生社会創造センター)、野口和彦(横浜国立大学リスク共生社会創造センター)、澁谷忠弘(横浜国立大学リスク共生社会創造センター)、坂本惇司(横浜国立大学先端科学高等研究院)、伊里友一朗(横浜国立大学環境情報研究院)、塩田謙人(横浜国立大学先端科学高等研究院)、三宅淳巳(横浜国立大学先端科学高等研究院)

小研修室（5F）

一般セッション3「原子力発電所をめぐるリスク」 座長：神田玲子（量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所）

G3-1 原子力発電所廃炉作業者の緊急時における連携体制づくりのための机上訓練

加藤尊秋（北九州市立大学国際環境工学部）、岡崎龍史（産業医科大学産業生態科学研究
所）、長谷川有史（福島県立医科大学医学部）

G3-2 トリチウム／汚染水の社会的影響

関谷直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

G3-3 無知のヴェールによる決定方法は社会的受容を高めるか？日本における高レベル放射性廃棄物地層処分候補地選定を題材とした仮想シナリオ調査

大沼進（北海道大学）、広瀬幸雄（関西大学）、大澤英昭（日本原子力研究開発機構）、大友章司（日本原子力研究開発機構）、横山実紀（北海道大学）

G3-4 リスクの「線引き」をめぐる一考察：原子力の「火山ガイド」を例に

菅原慎悦（電力中央研究所）

G3-5 原子力発電所の安全目標とリスクの考え方

高橋智子（山梨大学大学院総合研究部）

11 月 10 日（土）13:30-15:40

多目的ホール（4F）

全体セッション「福島の今と未来 リスク学の今と未来」 座長：村上道夫（福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座）

S3-1 福島の今と未来：リスク学の挑戦

村上道夫（福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座）

S3-2 福島の環境回復活動における環境学・リスク学の役割：除染、減容化、再生利用の視点から、何をすべきだったか、今後何をすべきか

保高徹生（産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門）

S3-3 市場の選択、社会の選択、個人の選択

五十嵐泰正（筑波大学大学院人文社会科学研究科）

S3-4 福島の甲状腺癌の過剰診断：なぜ発生し、なぜ拡大したか

高野徹（大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科学）

S3-5 原発事故による健康影響、その全体像

越智小枝（東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座）

11 月 10 日（土）15:50-18:20

口頭発表：多目的ホール（4F）、ポスター発表：企画展示室（3F）

ハイブリッドセッション 座長：岸本充生（大阪大学）

H01 アクリルアミドヘモグロビン付加体定量に関する研究

安本勇貴（京都大学大学院工学研究科）、伊藤慎二（京都大学大学院医学研究科）、松井康人（京都大学大学院工学研究科）、松田知成（京都大学大学院工学研究科）、米田稔（京都大学大学院工学研究科）

H02 複数農薬の累積的生態リスク評価ツール「NIAES-CERAP」の開発

永井孝志（農研機構・農業環境変動研究センター）

H03 オゾン水およびオゾンガスを利用した野菜の食中毒リスク低減

内藤博敬（静岡県立大学食品栄養科学部環境生命科学科）、野木菜々子（静岡県立大学食品栄養科学部環境生命科学科）、谷幸則（静岡県立大学食品栄養科学部環境生命科学科）

H04 南海トラフ地震による浮き屋根式タンクからの揮発性化学物質流出を想定した健康影響評価

田淵裕也（大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻）、小島直也（大阪大学大学院工学研究科）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）

H05 上水道配管の耐震化優先度評価 -大阪市におけるケーススタディ-

濱本翔吾（大阪大学工学部環境・エネルギー工学科）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）、小島直也（大阪大学大学院工学研究科）

H06 帯電エアロゾル粒子のフィルタ捕集効率

村井智瑛（京都大学）、木本成（京都大学）、松井康人（京都大学）、米田稔（京都大学）

H07 高感受性集団における室内アレルゲン曝露と喘息の用量反応分析

曾我部隆幸（大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻）、小島直也（大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻）

H08 エネルギー消費・ヒト健康影響・コスト・廃棄物管理の観点からみた LED 照明への更新に関する影響評価

山田湧也（大阪大学工学部環境・エネルギー工学科）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）、小島直也（大阪大学大学院工学研究科）

H09 土壌に吸着した放射性セシウムの不溶化

見城花菜子（福島県立福島高等学校）、星葵衣（福島県立福島高等学校）、高橋怜央（福島県立福島高等学校）、大橋弘範（福島大学）、原尚志（福島県立福島高等学校）

H10 福島県伊達市における空間線量率の長期観測データを用いた曝露量の推定

藤長愛一郎（大阪産業大学）、村山留美子（神戸大学）、岸川洋紀（武庫川女子大学）、内山巖雄（ルイ・パスツール医学研究センター）、菅野幸雄（環境ワーキンググループ伊達）、島田久也（環境ワーキンググループ伊達）、引地勲（環境ワーキンググループ伊達）

H11 消費者庁が取組む食品安全に係るリスクコミュニケーション～放射性物質から健康食品まで～

石川一（消費者庁消費者安全課）、井河和仁（消費者庁消費者安全課）

H12 食品リスクリテラシーと食品選択動機の関係

伊川美保（京都大学大学院教育学研究科）、楠見孝（京都大学大学院教育学研究科）

H13 食品安全の理解を支援するツールの開発と活用の試み

関澤純（NPO 法人食品保健科学情報交流協議会）、広田鉄磨（関西大学）

- H14 家庭用電気製品の事故リスクと化学物質リスクに関する社会受容性調査
恒見清孝（産業技術総合研究所）、川本朱美（産業技術総合研究所）、小野恭子（産業技術総合研究所）
- H15 福島県民が抱くリスクへの不安の経年変化やその情報源との関連
鈴木聡（福島県環境創造センター）、村上道夫（福島県立医科大学）、竹林由武（福島県立医科大学）、原田茂樹（宮城大学）
- H16 東日本大震災後の原子力発電所に関する各種認知と利用に関する考えの関連について
村山留美子（神戸大学）、藤長愛一郎（武庫川女子大学）、岸川洋紀（大阪産業大学）、渡邊優香（九州大学）、内山巖雄（ルイ・パストゥール医学研究センター）
- H17 原子力発電の受容の影響要因：日本人と米国人大学生との比較
王晋民（千葉科学大学）、岡部康成（帯広畜産大学）
- H18 福島県内の災害・復興公営住宅におけるコミュニティ形成のネットワーク分析
小林智之（日本学術振興会、福島県立医科大学）、吉田和樹（福島県立医科大学）、竹林由武（福島県立医科大学）、村上道夫（福島県立医科大学）
- H19 災害の危険性等をふまえた自然災害リスク軽減を図るためのインセンティブ防災論
三浦伸也（国立研究開発法人防災科学技術研究所）、坪川博彰（国立研究開発法人防災科学技術研究所）
- H20 非定常な化学物質流出に対する現状対応の整理と複数の自治体・事業種間でみられる特徴の整理
伊藤理彩（東京大学大学院理学系研究科）、小島直也（大阪大学大学院工学研究科）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）
- H21 国レベルの環境政策立案への市民参加における論点整理
吉田悦子（東京大学大学院新領域創成科学研究科）、吉田好邦（東京大学大学院新領域創成科学研究科）
- H22 ビジネスパーソンへのリスク研究への関心度合いと日本リスク研究学会年次大会への参加促進要因に関する基礎的検討
鈴木寿一（キャノン株式会社）、井上知也（みずほ情報総研株式会社）
- H23 レギュラトリーサイエンスタスクグループ活動報告：レギュラトリーサイエンスのもつ解決志向性とリスク学の親和性
藤井健吉（花王安全性科学研究所）、平井祐介（横浜国立大学）、井上知也（みずほ情報総研）、河野真貴子（東京大学）、小野恭子（国立研究開発法人産業技術総合研究所）、保高徹生（国立研究開発法人産業技術総合研究所）、岸本充生（大阪大学）、永井孝志（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）、村上道夫（福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座）
- H24 リスクコミュニケーション TG の活動について
竹田宜人（（独）製品評価技術基盤機構）
- H25 2018 年の日本リスクを俯瞰する（「今年のリスク」選定 TG 報告）
岸本充生（大阪大学データビリティフロンティア機構）
- H26 リスク教育とリスクリテラシーの測定尺度の検討

金澤伸浩(秋田県立大学)、田中豊(大阪学院大学)、小山浩一(株式会社 Break On Through)、
内藤博敬(静岡県立大学)、伊川美保(京都大学大学院)、中山由美子(住友化学株式会
社)

H27 リスク認知バイアスをターゲットとした食のリスクコミュニケーション手法の開発ならび
に効果検証

山崎毅(NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS))、大瀧直子((一財) 日本食品分
析センター)、富岡伸一((株) 津々浦々・関西学院大学大学院)、広田鉄磨(関西大学)、
山口治子(愛知大学)

11 月 11 日(日) 9:00-10:40

401 会議室(4F)

企画セッション4「科学とリスク2つのコミュニケーションのはざまに～リスク教育を通じて
～」 座長: 竹田宜人(日本リスク研究学会リスクコミュニケーション TG、横浜国立大学大学院
環境情報学府客員准教授、独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質管理センター調査官)

O4-1 科学コミュニケーションとリスクコミュニケーションの背景と違いをもたらしたもの

松永陽子(日本エヌ・ユー・エス株式会社、横浜国立大学)

O4-2 科学コミュニケーションにおけるリスクコミュニケーションの位置づけ

種村剛(北海道大学 CoSTEP)

O4-3 横浜国立大学カリキュラムにおけるリスクコミュニケーションモデル

本間真佐人(横浜国立大学)、中山穰(東京大学)、竹田宜人(独立行政法人製品評価
技術基盤機構)、松永陽子(横浜国立大学)、熊崎美枝子(横浜国立大学)

O4-4 CoSTEP におけるリスクコミュニケーション教育の考え方とカリキュラム

早岡英介(北海道大学 CoSTEP)、池田貴子(北海道大学 CoSTEP)

402 会議室(4F)

企画セッション5「変わる災害広報～防災行政無線の次に来るものは～」 座長: 増田和順(国
立研究開発法人防災科学技術研究所)

小研修室(5F)

一般セッション4「東日本大震災後のリスク・社会」 座長: 村山武彦(東京工業大学)

G4-1 避難指示区域における個人被ばく線量の計測・評価・コミュニケーションとその教訓

内藤航(国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門)、上坂元紀(国立研究
開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門)

G4-2 低線量放射線とストレス、どちらががんリスクを上げるか

宇野賀津子((公財) ルイ・パストゥール医学研究センター)

G4-3 福島第一原発事故による食品の放射線リスクへの態度: 8 波パネル調査データによる 3 地
域差と 7 年間の推移の検討

楠見孝(京都大学大学院教育学研究科)、三浦麻子(関西学院大学文学部・大阪大学大学

院基礎工学研究科)、小倉加奈代(岩手県立大学ソフトウェア情報学部)

G4-4 東日本大震災からの復興シミュレーション

前田恭伸(静岡大学)、増田遼麻(静岡大学)

G4-5 福島第一原子力発電所事故被災者の生活再建への情報支援についての検討

関澤純(NPO 法人食品保健科学情報交流協議会)、長坂俊成(立教大学)

11 月 11 日(日) 10:50-12:30

401 会議室(4F)

水環境学会・保険学会・災害情報学会・安全工学会後援合同：企画セッション6「災害リスク、非定常リスクへの対応～分野を超えた共通知を探る～」 座長：小野恭子(産業技術総合研究所安全科学研究部門)

O6-1 都市型洪水に伴う水系感染症による健康リスクの将来予測

真砂佳史(国際連合大学サステナビリティ高等研究所)、Binaya Kumar Mishra(国際連合大学サステナビリティ高等研究所)、Pankaj Kumar(国際連合大学サステナビリティ高等研究所)、Mohamed Kefi(国際連合大学サステナビリティ高等研究所)、Shokhrukh-Mirzo Jalilov(国際連合大学サステナビリティ高等研究所)

O6-2 地震保険加入・非加入の選択行動と地震保険の募集実態に関する調査・研究

野崎洋之(株式会社野村総合研究所)

O6-3 対話的な災害リスク・コミュニケーションの手法

矢守克也(京都大学防災研究所)

O6-4 化学物質のフィジカルハザード評価

松永猛裕(産総研安全科学研究部門)

402 会議室(4F)

企画セッション7「予測がつくる社会」 座長：山口富子(国際基督教大学)

O7-1 感染症シミュレーションにみるモデルの生態学

日比野愛子(弘前大学人文社会科学部)

O7-2 過去に基づかざるを得ない地震の予測：東日本大震災における失敗

額縁一起(東京大学地震研究所)

O7-3 未来の語りが導くイノベーション：ゲノム編集技術を事例として

山口富子(国際基督教大学)

O7-4 DNA 型鑑定の展開と期待／失望

鈴木舞(東京大学)

小研修室(5F)

一般セッション5「化学物質リスク評価・管理」 座長：藤井健吉(花王株式会社)、大野浩一(国立環境研究所)

G5-1 リスク評価手法改善に向けた有害性及び排出・暴露特性に基づく化学物質類似度測定

堀本祥平（大阪大学大学院工学研究科）、小島直也（大阪大学大学院工学研究科）、高橋宏輔（大阪大学大学院工学研究科）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）

G5-2 動的マテリアルフローを用いた POPs 物質のリスク評価—化審法第一種特定化学物質に対する活用事例—

井上知也（みずほ情報総研株式会社）

G5-3 汚水処理人口普及率の向上を踏まえた生態リスク低減効果の分析—洗剤を対象として—
中久保豊彦（お茶の水女子大学）、石川百合子（産業技術総合研究所）

G5-4 構造分解分析を用いた PRTR 化学物質排出量変化要因の定量的な分析と考察

藤岡勝之（大阪大学大学院工学研究科）、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）、小島直也（大阪大学大学院工学研究科）

G5-5 PRTR排出量の集計データと企業の生産活動

出雲充生（横浜国立大学）、中山穰（東京大学）、竹田宜人（製品評価技術基盤機構）、熊崎美枝子（横浜国立大学）

11 月 11 日（日）13:30-15:10

401 会議室（4F）

水環境学会・保険学会・災害情報学会・安全工学会後援合同：企画セッション8「エマージングリスク（新興・急増リスク）への対応～分野を超えた共通知を探る～」 座長：上野雄史（静岡県立大学経営情報学部）

O8-1 エマージングリスクとしての原子力災害—原子力事故における避難行動・防護行動の課題—

関谷直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

O8-2 気候変動と琵琶湖全循環停止リスク

菊池健太郎（滋賀大学経済学部）、朴相圭（東京大学大学院工学系研究科）、周金鑫（東京大学大学院工学系研究科）、久保英也（滋賀大学大学院経済学研究科）、北澤大輔（東京大学生産技術研究所）、吉田毅郎（東京大学生産技術研究所）、吉山浩平（滋賀県立大学環境科学部）

O8-3 薬剤耐性菌の水環境中への拡散による潜在的健康リスク

本多了（金沢大学）

O8-4 化学企業が抱える爆発・火災リスク

熊崎美枝子（横浜国立大学）

402 会議室（4F）

企画セッション9「科学哲学の遠征—リスク研究の目的と方法を探る」 座長：清水右郷（国立循環器病研究センター医学倫理研究部）

O9-1 専門家の認識的規範と倫理的規範—臨床研究の倫理を参考に—

清水右郷（国立循環器病研究センター医学倫理研究部）

O9-2 リスク研究と哲学的因果論の接点

清水雄也（一橋大学）

O9-3 リスク評価における「客観性」とは何か

小野恭子（産業技術総合研究所安全科学研究部門）

小研修室（5F）

一般セッション6「リスクコミュニケーション・リスク概念・保険」 座長：東海明宏（大阪大学大学院）

G6-1 リスクと価値をめぐるコミュニケーションの研究～科学技術及び原子力発電に対する人々の価値意識の調査結果を踏まえて～

桑垣玲子（一般財団法人電力中央研究所社会経済研究所）

G6-2 レスポンシブル・ケア地域対話におけるリスクコミュニケーションについて（地域の課題解決のための対話）

竹田宜人（(独)製品評価技術基盤機構）

G6-3 持続可能性の文脈における「リスク」-土壌劣化を例として-

河野真貴子（東京大学）、平尾雅彦（東京大学）

G6-4 0.01 のパラドックスとジレンマ

北野利一（名古屋工業大学）

G6-5 農業者のリスク意識と収入保険

吉井邦恒（農林水産省農林水産政策研究所）

11 月 11 日（日）15:20-16:20

401 会議室（4F）

表彰式・閉会式